

伊藤公記念館駐車場のそばの川

伊藤公記念館駐車場のそばを流れる川。季節ごとに違った趣で、訪れる人を迎えてくれます。

春。川越しに目をやると、山には山桜の薄桃色、野には菜の花の黄色。日ごとに豊かになる水音に耳を傾けると、いつまでも佇んでいたいような気分になります。

夏。子どもたちのイチオシの季節です。その理由は？と、尋ねると、申し合わせたように、「ホタルがおるから。」という返事。子どもたちの言う通り、夏の宵にホタルの描く光の曲線は、時を忘れて見入ってしまいます。

秋。春と同じように川越しに目をやると、今度は黄金色の田んぼ、そして、それを縁取る彼岸花の赤。コントラストが鮮やかです。

冬。水量がぐっと少なくなった川。早朝は、草の表面についた霜が輝いています。

子どもたちは、ホタルの季節を文章で紹介していますが、お近くを通られましたら、季節を問わず立ち寄りたてはいかがでしょうか。

すぐそばの桂花茶房、伊藤公記念館もおすすめの場所です。

なつになったら、ぼくはホタルをみにいきます。

ことしは、おとうさんとみにいきました。かいちゅうでんとうをもっていきました。

ほたるは、川にいました。でも、田んぼにもくさむらにもいました。

はっぱにくっついたほたるがいました。そのほたるを、右手と左手ではさみうちのようにすると、つかまえることができました。ほたるは、にげませんでした。

ぼくは、そのほたるをしゃしんにとりました。そして、にがしました。

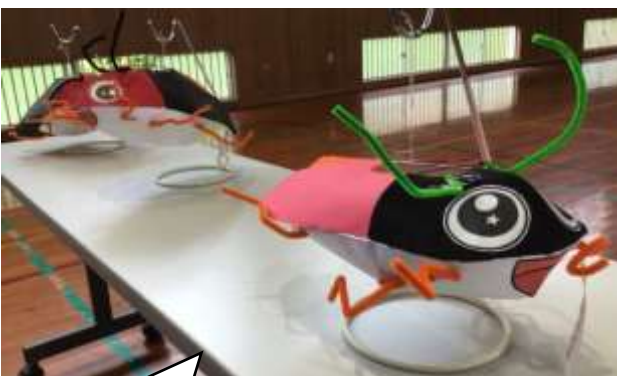
川でほたるをみていたら、〇〇くんも、ほたるをみにきていました。ぼくは、〇〇くんに手をふりました。

「見てくれるかな、〇〇くん。」

と、おもいました。ちょっとだけ見てくれたみたいでした。くらかったからかなあ。

〇〇くん、こんどあったときにも手をふるよ。いっしょにほたる見ようね。

みなさん、なつになったら、つかりのほたるをみにきてね。



手作りのほたるちょうちん。
ゲストティーチャーに教わって、
みんなで作りました。

